

令和 7 年度農林水産省行政事業レビュー公開プロセスの結果
みどりの食料システム戦略推進総合対策
＜取りまとめコメント＞

【論点 1 「短期アウトカムのマニュアル策定が長期アウトカムへつながるよう、ロジックモデル上で示すことができないか。」について】

- アクティビティにある「支援」が、一般国民には、わかりにくいので、アウトプット・アウトカムとの関係でブレイクダウンして記載してはどうか。
- まずは分かりやすい説明を目指していただければ幸いである。例えば都道府県ごとに取組の濃淡があるとのことであった。ところがロジックモデルには都道府県の姿は見えてこない。ここにも工夫の余地がありそうである。
- 短期アウトカムから長期アウトカムへの効果発現の経路、その実現に向けた担当部局の目論見や工夫が読み取りにくい。実施方針等の策定、県域・品目ごとの普及指導状況など定性的に示された内容に加え、実際の生産開始・拡大状況についても、中期アウトカムとして定性的に示してもよいし、できるものについては指標として採用してはどうか。
- 中期アウトカムとして、実証地区のマニュアルを受けた各都道府県の取り組み（普及事業の実施方針の策定状況など）を追加し、その上で、長期アウトカムについて、47都道府県全体の使用量低減や、低減を達成した都道府県割合等、各都道府県の取り組みの進捗が分かる指標の検討も必要ではないか。

【論点 2 「有機農業の長期アウトカムの達成に向けて、生産から流通・消費までどのような道筋で拡大していくか、ロジックモデル上で示すことができないか。」について】

- 現時点で「生産」が不足していることは理解したので、それが達成したあとの「流通」「消費」の拡大まで想定していることがわかるような記載をしてはどうか。
- 本事業には多くの指標が掲げられているので事業の本質が見えにくい。他方、狙いは「体制整備」にあるとのことであった。そうであれば「体制整備」の指標にこだわってロジックモデルを表現してみるのも一案かもしれない。
- 本戦略の背景には食料安全保障の考え方もあり、まずはサプライサイド先行でよい。生産が動き始めて、消費や流通の課題も見えてくる。課題に応じてアジャイルに動けるよう、まずは実態把握を丁寧に進められたい。こうした取組みの必要性に対する理解増進のためにも、生活者や消費者に対してナラティブなストーリーの共有が不可欠で、これも引き続き進められたい。

【その他】

- みどりの食料システム戦略は、「調達」「生産」「加工・流通」「消費」という4つのセグメントに分けて、生産力向上と持続性の両立をイノベーションが重視しながら進めるとされている。そうであれば、4つのセグメントそれぞれにおいて下位指標を設定することも考えられそうである。